

## 2016年度 第3回執行理事会議事録

日時：2016年9月9日（金）11:00～12:30

場所：地質学会事務局

出席者：渡部会長 山本副会長 松田副会長  
齋藤常務理事 安藤 岡田 緒方 小宮  
坂口 杉田 辻森 内藤 中澤 西 廣  
木 山田（事務局）橋辺

欠席者（委任状提出あり）：田村 平田

\*定足数（12、委任状含む）に対し、出席者  
16名、委任状2名、合計18名の出席。

\*前回議事録を承認した。

### 審議事項

1. 産総研地質調査総合センターより「地方  
におけるCPD単位認定講演会等への講師派  
遣に関するご提案」が正式にあった。

2. JIS原案作成委員会の委員の推薦につ  
いて

委員候補の委員として、宮下元会長を推  
薦することとした。

3. 東レ科学技術研究助成への応募1件の検  
討（10/7締切）

菅沼悠介会員（極地研究所）より推薦応募  
があり、検討のうえ推薦することとした。

4. 創立125周年に向けての学会コミュニケ  
について

会長よりコミュニケ案が示された。

5. 日本地質学会謝金細則の改正

メール審議の後、今回確認して、理事会に  
上程することとした。

6. 理事会議事進行

「2016年度第2回理事会議事次第」に沿っ  
て確認

7. その他

来月以降の執行理事会開催予定。10月22日  
（土）、11月19日（土）

### 報告事項

1. 全体的報告

1) 県の石について、山口県および鳥取県に  
会長が赴いて面談した。

辻森理事より、「県の石」活動報告で概  
要紹介。

2. 運営財政部会：総務委員会（緒方・西）

<共催・後援依頼、他団体の募集等>

1. 「2016土壌・地下水環境展」（10/19-21、  
土壌環境センター、日刊工業新聞主催）  
の協賛依頼について承諾した。

2. 第7回日本ジオパーク全国大会「日本  
ジオパーク伊豆半島大会」（10/10-12）  
の後援依頼を承諾した。

3. 山田科学財団「2016年度研究援助候補者  
の推薦」案内（10/1-2/24）学会推薦  
は3件まで→News誌、HP、geo-flashに  
掲載

4. 福武財団「瀬戸内海文化研究・活動支  
援助成」の募集案内（9/1-9/30）  
→News誌、HP、geo-flashに掲載

<その他>

1. 地学団体研究会より、“・・原発ゼロ  
社会を目指す”、“・・軍学共同研究に反  
対する”の2件の声明を総会で採択した  
との連絡があった。

<会員>

1. 今月の入会者（3名）

正会員〔2名〕：平野公平、寶代誠二郎

正（院割）会員〔1名〕：村松 樹

2. 今月の退会者 なし

3. 今月の逝去者（1名）

正会員（1名）：加藤萬太郎（2016/04/15）

4. 2016年5月末日会員数

賛助：27、名誉：57、正会員：3695（正

会員：3525、正（院割）会員：162、正

（学部割）会員：8）合計 3779（昨年比

-84）

<会計>

・The Geology of Japanは8/10に入荷（360  
部）、その日のうちに予約者に発送した。

販売部数355部の収支は、収入2,318,000円、  
支出1,684,879円（代金、送料など）。GSLか  
らの報告では売れ行きが好調で、おおよそ  
630部販売したとのこと。

・東京大会の経費について、会場の状況によ  
るパネル枚数の増加とそれに伴う運送経費  
などで、経費の増加が見込まれている。

3. 広報部会：広報委員会（坂口・小宮・内  
藤）

4. 学術研究部会（岡田・山田）

1) 行事委員会（岡田）

・東京桜上水大会、愛媛大会、北海道大会  
について

・東京大会巡検実施状況報告：予定コース  
11件のうち、催行9件、2件（G、H）  
が取り止めとなった。催行人数にわず  
かに下回ったコースでは、レンタカー  
使用で実施を可能とした。

・レンタカー使用巡検について：今回は特  
例で認めたので、今後の対応が必要。  
今回は安全に実施するため、レンタカ  
ー使用実施マニュアル、巡検レンタカ  
ー運転チェックシートを作成すること  
で、対応を行った。

・レンタカー利用の巡検および催行人数に  
達しない場合の実施方法について、事  
故対応なども含め検討した。

・2017年の愛媛大会では8件の巡検（案）  
がある。実施コース、催行の可能性、  
日程等の再検討も必要。愛媛大会のた  
めにルールや方針の検討をし、年内に  
決定し、示す必要がある。

5. 編集出版部会（中澤・田村・小宮）

1) 地質学雑誌編集委員会（山路編集委員  
長、中澤担当）

(1) 編集状況報告（8月5日現在）。

2016年投稿論文 総数58編〔総説3  
（和文3）、論説31（和文31）、報告4（和  
文3、英文1）、講座5（和文5）、ノー  
ト3（和文2、英文1）、口絵1（和文  
1）、巡検案内書11〕

査読中：37 受理済み：12

・122巻8月号：巡検案内書5編（計86ペ  
ージ、発行済み、9/1発送）

・122巻9月号：論説3、報告1、口絵1  
（計約55ページ、入稿中）

・巡検案内書について、全11コース中10コ  
ース掲載。残りの1編については引用要  
件が整い次第受理・掲載の予定。

・125周年記念特集号：「深海掘削計画  
（IODP）と深部掘削船「ちきゅう」10年  
の成果IおよびII」（世話人：西 弘嗣）  
投稿開始

・Thomson Reuterとの打ち合わせ。Web  
of Scienceへの対応

・Scopusへの対応 今後検討

2) アイランドアーク編集委員会（田村）

(1) 編集状況

Vol.25 Issue5（2016年9月）：特集号：  
Geological records of storms, tsunamis  
and other extreme events（世話人：藤  
野滋弘）6編まもなく発行予定。

Vol.25 Issue6（2016年11月）：IGCP608\*<sup>1</sup>、  
坂口特集\*<sup>2</sup>から各2編、一般原稿1編：  
計5編

\*<sup>1</sup> Land-Ocean Linkages and Biotic  
Evolution during the Cretaceous:  
Contribution from Asia and Western  
Pacific

\*<sup>2</sup> The mechanics and evolution of  
megathrusts within accretionary  
complexes

(2) オンライン投稿の状況

過去半年（2016.2.1～2016.7.29）の投稿  
数46件。うち新規投稿41件。

(3) その他

・査読システムの新機能等の付加（論文査  
読者にcreditを授与するPublonsの導入、  
Reviewer Locator機能の付加）

・校正原稿の重大な組版ミスが多発し、校  
正、編集作業に遅れが生じた。ワイリー  
で現在原因を調査中。Typesetterの業者  
変更も含めて検討中。

6. ジオパーク支援委員会（平田）

1) 第17回地震火山子どもサマースクール in  
南紀熊野

・開催場所：南紀熊野ジオパーク

・実行委員長：和歌山大学 此松教授

・テーマ：「南紀熊野の海と山のヒミツ」

・日時：平成28年8月20日（土）、21日  
（日）

・参加者：38名（小学生13名 中学生16名  
高校生9名）

2) 9/9、日本ジオパークネットワークの  
審査委員会が開催されている。

7. 地学オリンピック支援委員会（平田）

1) 国際地学オリンピック三重大会報告（坂  
口）

理事会において、日本地学オリンピッ  
ク委員会の久田理事長より、報告がある  
予定であるが、ざっと今大会の様子が報  
告された。

8. 地質技術者教育委員会（山本）  
夜間小集会で検討予定
9. 125周年記念事業実行委員会（緒方、渡部）  
会員証発行について、理事会に上程する。
10. 県の石支援委員会（辻森）  
・県の石の周知、広報、活用について山口県および鳥取県に続き、今後各県への働きかけを行っていく。  
・公明新聞から紹介記事の依頼があり、井龍理事が対応。  
・出版プロジェクトについて、現在、プランを検討中。
11. その他
- 1) 子どもゆめ基金への応募について（岡田）  
子ども向け地質学デジタル教材（タブレットで使用）の製作について、地質学会として、子供夢基金の助成を受けて、出版社 オリーブグリーン: <http://www.olive-green.info/> から出版する、という提案があることが岡田理事から紹介された。  
岡田、小宮担当理事であらかじめ検討のうえ、今回の執行理事会で検討することとした。
- 2) 防災学術連携体総会報告（齊藤）  
8/27に実施された防災国民大会等について報告された。

以上

2016年9月9日  
一般社団法人日本地質学会執行理事会  
会長（代表理事）渡部芳夫  
署名人 執行理事 斎藤 眞

## 2016年度 第4回執行理事会議事録

日時：2016年10月22日（土）13:00～18:00  
場所：地質学会事務局  
出席者：渡部会長 山本副会長 松田副会長  
齋藤常務理事 安藤 小宮 坂口 杉田  
内藤 西 廣木（事務局）橋辺  
欠席者（委任状提出あり）：緒方（渡部） 岡田 田村 辻森（齊藤） 中澤 平田（渡部） 山田（欠席委任なし）  
\*定足数（12、委任状含む）に対し、出席者12名、委任状5名、合計17名の出席。  
\*前回議事録の承認

### 審議事項

1. 創立125周年に向けての学会コミュニケーション最終案の確認（渡部会長）  
「地質の日」の活動を含めた支部活動の啓蒙や活性化を目指し、各支部支援も考慮する。
2. 「調査研修実施要領」の策定について（杉田・緒方）

要領の内容について修正の上、今回の執行理事会で再検討

3. 子ども向け地質学デジタル教材（タブレットで使用）の制作：子どもゆめ基金（国立青少年教育振興機構）への応募について（岡田・小宮）

平成29年度子どもゆめ基金助成金（教材開発・普及活動；電子申請締切11/7）について、申請書、協力社（オリーブ・グリーンの実績）、Websiteによる事業詳細と採択実績等を考慮し、執行理事会としては本年度の申請（担当：小宮）を了解する。ただし、申請時期が迫っているので、提出までに理事会の承認は間にあわない。事後承諾となるが、今回の理事会で承認を得ることとする。

4. 名誉会員推薦委員会委員候補者を予定し、11月の執行理事会で候補者の決定をして12月の理事会に諮る。委員長は山本副会長。執行理事会で候補者を立てる階層委員については、候補者を検討し、次回執行理事会までに内諾を得ることとする。職責委員（各支部長）については下記の通りである。

- ・職責委員（各支部長）7名（竹下 徹、柴正敏、有馬 眞、大藤 茂、三田村宗樹、石塚英男、仲谷英夫）
- ・階層委員：官公庁、小中高教員、会社、大学から各1名ずつ

- ・理事会推薦委員1名：次回理事会で決定
5. 愛媛大会の8件の巡検（案）について、催行の可能性、日程、費用、交通等の再検討し、愛媛大会のためにルールや方針について早急に検討し、示す必要がある。行事委員会での至急の検討を依頼する。

6. 12月理事会議案である、総会の日程について

日程は連合大会（5/20-25）期間中の20日か21日とし、会場はメッセも含めて、幕張付近の会議施設を検討する。

### 報告事項

1. 全体的報告
- 1) 県の石について、10/7に茨城県庁で会長が橋本知事と面談した。  
橋本県知事からは県の石の展示方法等、要望があった。  
現在、茨城県を含む4県への広報活動が進行している。
- 2) リーフレット「日本列島と地質環境の長期安定性」の資源エネ庁からの利用依頼について  
印刷物の販売・ネット配信等についての検討状況の概要報告された。
- 3) 国際地学オリンピック三重大会の実施報告書（会計報告）が送付された。  
余剰金については今後の地学オリンピック委員会の運営活動に使用すると報告があり、日本委員会として、寄付者に余剰金の使途を説明すべき、との意見を申し出ることとした。
2. 運営財政部会：総務委員会（緒方・西）  
<共催・後援依頼、他団体の募集等>

- ・第58回藤原賞（藤原科学財団）の募集、対象は自然科学で所属組織・機関の長の推薦が必要。応募締め切りは12/20、学会の締め切りは11/30とする。→geo-flash, HP, Newsに掲載

- ・ゼオライト学会よりの第32回ゼオライト研究発表会（12/1-2）の協賛依頼を承諾した。
- ・朝日新聞社主催の第14回高校生科学技術チャレンジ（JSEC2016）の後援依頼を承諾した。
- ・経済調査会よりの地質調査要領説明会（全地連主催）の後援を承諾した。
- ・東大気海洋研究所共同利用並びに学際連携研究の公募案内（締切11/30）→geo-flash, HPに掲載。

### <その他>

- 1) 東北大学多元物質科学研究所（旧選鉱研）の設立記念式典への案内があり、井龍前会長に出席をお願いした。

### <会員>

1. 今月の入会者（4名）  
正会員〔2名〕：鈴木正哉、山崎敏夫  
正（院割）会員〔2名〕：関 笙、山田晃也
2. 今月の退会者（正会員1名）吉田開祐
3. 今月の逝去者（正会員1名）鈴木和博（2016/10/15）
4. 2016年9月末日会員数  
賛助：27、名誉：57、正会員：3711（正会員：3528、正（院割）会員：170、正（学部割）会員：13）合計 3795（昨年比-79）

### <会計>

- ・東京桜上水大会の収支については、予算より収入がやや伸び、支出が抑えられたため黒字となる見込み。参加者、費用項目、業者の対応等簡単な報告。
3. 広報部会：広報委員会（坂口・小宮・内藤）
- 1) フォトコンについて  
・昨年同様に協賛および後援依頼を行い承諾を得た。協賛：ウィンダーネットワーク（株）（協賛金5万円）、後援：JGN（後援金3万円）、深田研ジオ鉄普及委（後援金各1万円）  
・広報用ポスターを作成、10/24以降に発送予定。
- 2) ジオルジュ後期号の編集状況について、現在校正中であり予め会長が記事に目を通されたことが報告された。
4. 学術研究部会（岡田・山田）
- 1) 行事委員会（岡田）  
・愛媛大会における情報展および市民講演会については、来年度の科研費応募のための準備中。
- 2) 国際交流委員会（井龍）  
・2024年37th IGC Pusan, Korea について、桜上水大会の際に大韓地質学会会長から巡検実施の協力要請があった。（渡部）
- 3) JIS, 標準担当（中澤、代 内藤）

- ・層序単元のデータベース化の進捗と今後の方針について、中澤理事の資料を内藤理事が報告した。
- 4) その他
  - ・日本学術会議 地理・地学教科書用語検討小委員会での作業進捗状況報告
  - ・JIS用語との連携も考慮する
- 5. 編集出版部会 (中澤・田村・小宮)
  - 1) 地質学雑誌編集委員会 (山路編集委員長, 中澤担当, 代 齋藤)
    - (1) 編集状況報告 (10月20日現在).
 

2016年投稿論文 総数79編 [総説8 (和文8), 論説42 (和文42), 報告7 (和文4, 英文3), 講座5 (和文5), ノート3 (和文2, 英文1), 口絵3 (和文3), 巡検案内書11], 査読中: 43, 受理済み: 16編 (うち特集号1)
    - ・122巻10月号: 論説3, 講座1 (計約52ページ, 10/24校了, 10/31発送予定)
    - ・125周年記念特集号投稿状況 (実際投稿数/予定論文数)
 

「深海掘削計画 (IODP) と深部掘削船「ちきゅう」10年の成果IおよびII」(4/14)

「日本の変成岩研究の進展と展望」(4/11)

「構造地質学の最近25年の成果と今後の展開: 第1部」(1/8)
    - ・Web of Scienceのコアコレクションのサブカテゴリーである「Emerging Sources Citation Index (ESCI)」(IFは付帯なし)への登録申請をおこなった。
    - ・学術情報データベース (EBSCOhost) から地質学雑誌を収録したい旨連絡があった。費用負担や事務的な手間を確認したうえで収録する方向で検討中。
  - 2) アイランドアーク編集委員会 (田村, 代 齋藤)
    - (1) 編集状況
 

Vol.25 Issue 6 (2016年11月): IGC608<sup>\*1</sup>, 坂口特集<sup>\*2</sup>から各2編, 一般原稿1編: 計5編
    - <sup>\*1</sup> Land-Ocean Linkages and Biotic Evolution during the Cretaceous: Contribution from Asia and Western Pacific
    - <sup>\*2</sup> The mechanics and evolution of megathrusts within accretionary complexes
    - (2) オンライン投稿の状況
 

過去半年 (2016.5.1~2016.10.20) の投稿数47件, うち新規投稿38件。
    - (3) その他
      - ・論文のHTML版の日本語要旨については、表題やキーワードは表示されず、要旨本文のみが表示されるように変更となった。
      - ・著者のORCID ID入力を義務化: Wiley出版の学術ジャーナルにおいて、投稿時に投稿著者のORCID ID入力を義務化して運営する方針となり、それに伴い、Island Arcも義務化することとなった(11月以降予定)。
      - ・誌面変更 (New Journal Design: NJD) の最終承認を行い、あわせて英文編集の

- Content Style Sheetを更新した。
- 3) 企画出版委員会 (小宮)
  - ・子ども向け地質学デジタル教材の制作についての検討
- 6. 社会貢献部会 (平田・杉田・廣木・辻森)
  - ・秋の地質研修は定員6名の申し込みがあり、実施が確定した。
  - ・「地質調査研修実施要領」案を検討
- 7. ジオパーク支援委員会 (平田)
  - ・下北, 筑波山, 箱根 (範囲拡大再申請) の3箇所が日本ジオパークに新規認定
- 8. 地質技術者教育委員会 (山本)
  - ・桜上水大会で夜間小集会を開催, フィールドマスター制度などについて意見を交換した。
- 9. 125周年記念事業実行委員会 (緒方, 渡部)
  - ・委員会開催報告 9/30, 10/26
  - ・地質学雑誌特集号, ジオルジュ特集号, ログ, 会員カード等の進捗状況報告
- 10. 県の石支援委員会 (辻森, 代齋藤)
  - ・9~10月の広報活動の資料報告
  - ・学会websiteに英語版 (石渡元会長作成, 35th IGCで配布) を掲載する
  - ・今後の広報活動の方向性

以上

2016年11月19日

一般社団法人日本地質学会執行理事会  
会長 (代表理事) 渡部芳夫  
署名人 執行理事 齋藤 真

## 2016年度 第5回執行理事会議事録

日時: 2016年11月19日 (土) 13:00~17:30

場所: 地質学会事務局

出席者: 渡部会長 山本副会長 齋藤常務理事 安藤 (4時半退出) 緒方 (3時退出) 岡田 田村 小宮 辻森 内藤 中澤 平田 西 (事務局) 橋辺 矢島 (125実行委員長: 14:00~14:40)

欠席者 (委任状提出あり): 松田副会長 坂口 杉田 (渡部) 廣木 山田 (委任なし)

\*定足数 (12, 委任状含む) に対し, 出席者 13名, 委任状 4名, 合計17名の出席。

\*前回議事録の承認

### 審議事項

1. 「地質調査研修実施要領」の策定 (再検討) について (杉田・緒方)

「地質調査研修」講師謝金に関する取決め」として再提案され, 提案どおり承認された。

2. 名誉会員推薦委員会, 階層別委員候補者として次の方々の内諾を得た。 (山本)

・官公庁: 加藤碩一 (産総研), 小中高教員: 会田信行 (秀明大学校教師部), 会社: 足立勝治 (アジア航測), 大学: 木村 学

(東京海洋大学)

・職責委員 (各支部長) 7名 (竹下 徹, 柴正敏, 有馬 真, 大藤 茂, 三田村宗樹, 石塚英男, 仲谷英夫)

・理事会推薦委員1名: 理事会にて決定

3. 大学改革支援・学位授与機構よりの, 大学及び高等専門学校の機関別認証評価委員会専門委員候補者の推薦依頼について (締切12/9)

推薦実績について確認し, 内諾を得たうえで女性2名を含む3氏を推薦することとした。

4. Orthorhombicの訳語について (中澤)

直方晶系 (斜方晶系) の使用を承認

5. 愛媛大会の8件の巡検 (案) の確定について (岡田)

巡検実行委員会案の詳細を確認の上承認。

安全対策, 旅行保険についても現状を確認。

6. 県の石出版企画案について (辻森)

・各県A5版見開き2p.の出版社提案を確認。

今後は支援委員会として出版を進めることを承認。

・地質学会websiteの「県の石」サイトに鉱物学会の「国の石」をリンクする。

7. ジオルジュ125周年記念特集号について (矢島理事, 渡部会長)

125周年記念事業実行委員会案のジオルジュ国際版 (内容, 経費等) について確認し, 配布・販売先についても検討の上, 承認した

8. 編集投稿出版規則の改正

逐条確認し, 郵送投稿の廃止については承認。細則4の引用文献の略記書式については, 差し戻し再検討を要請。

9. IAR編集業務について (安藤)

学会事務局で行っている編集事務業務をWileyに委託することを検討し, 事務局の業務実態およびWileyが提示した業務内容, 経費を検討し, 2017年1月より実施できるように,

次回 (12/3) の理事会に提案することとした。そのために, 編集委員長, 編集委事務局, 事務局で, 至急Wiley担当者と交渉し詳細をつめることとする。

10. 2016年度事業実績経過報告 (渡部会長)

資料に基づき確認し, 各担当者が追加事項を理事会に間に合うよう会長に提案する。

11. 2017年度事業計画骨子 (案) (渡部会長)

資料の追加内容について, 各担当者が追加事項を理事会に間に合うよう会長に提案する。

12. 創立125周年に向けてのアクションプラン (案) (渡部会長)

資料を確認し, 1月News誌掲載に向けて, 具体的な内容を執行理事がそれぞれ検討し, 会長に提案する。

13. 12月理事会議案の確定

議案

・総会の日程について: 5月20日 (土) ないし21日 (日) 12:15-13:45を予定する。連合会場の中で100人くらいの部屋をあらかじめ予約。なお会場費は無料。

・2016年度事業実績経過報告

- ・2017年度事業計画骨子(案)
  - ・地質学雑誌投稿編集出版規則の改正
  - ・IARの編集体制の変更について
  - ・「地質調査研修」講師謝金に関する取決めについて
  - ・創立125周年に向けてのアクションプラン(案)
  - ・名誉会員推薦委員会委員の選出
- おもな報告事項
- ・125周年委員会報告
  - ・子供ゆめ基金申請(子ども向け地質学デジタル教材の制作)に関する報告
  - ・県の石出版物の報告
  - ・執行理事会報告

## 報告事項

### 1. 全体的報告

1) 子ども向け地質学デジタル教材の制作について、(株) デジラタの竹内氏および(株) オリーブグリーンの大野氏らと協議し、11/7に平成29年度の子供ゆめ基金に応募した。第一次審査の結果は12月中に出る予定。これに通れば第二次審査の際にはヒアリングがある。(小宮)

2) 原子力学会誌アトモス編集委員会より会長へ寄稿依頼があり了承した。(渡部会長) 3.11以降の活動についてとりまとめる予定。

3) 地球惑星連合第15回学協会長会議報告(渡部会長)

所属学協会の団体社員と個人会員から選出される個人社員が重複する場合があるので、団体社員を無くすことになった。その代わりに組織を作って連合の理事会に意見を挙げる道筋をつけることになった。

2. 運営財政部会：総務委員会(緒方・西) <共催・後援依頼、他団体の募集等>

1) 「第54回アイソトープ・放射線研究発表会」(2017/07)の共催を承諾し、運営委員として小宮剛理事を推薦した。

2) 地質汚染・医療地質・社会地質学会主催の「第26回環境地質学シンポジウム」(11/25-26)の共催を承諾した

<会員>

1. 今月の入会者(3名)：正会員(学部割)[3名]：藤原弘士(書類修正の上承認する)、柿畑優季、大山 望

2. 今月の退会者 なし

3. 今月の逝去者(名誉会員1名)倉沢一(11月13日)

4. 2016年10月末日会員数  
賛助：27、名誉：57、正会員：3714(正会員：3530、正(院割)会員：171、正

(学部割)会員：13) 合計 3798(昨年比 -76)

<会計>

・東京桜上水大会の収支については、概算で83万円ほどの黒字となる見込み。

3. 広報部会：広報委員会(坂口・小宮・内藤)

1) フォトコンの募集について、各所へポスターの配布をし、周知した。

2) ジオルジュ 2017年前期号の企画会議を11/11に開催

3) 博多の陥没事故について産総研HPにリンクした。

4. 学術研究部会(岡田・山田)

1) 行事委員会(岡田)  
・愛媛大会における情報展および市民講演会について、来年度の科研費に応募した。

5. 編集出版部会(中澤・田村・小宮)

1) 地質学雑誌編集委員会(山路編集委員長、中澤担当)

(1) 編集状況報告(11月17日現在)。

2016年投稿論文 総数86編[総説15(和文15)、論説42(和文42)、報告7(和文4、英文3)、講座5(和文5)、ノート3(和文2、英文1)、口絵3(和文3)、巡検案内書11]

査読中：41、受理済み：14編(うち特集号2)

・122巻11月号：論説4、報告1(計約60ページ、10/21校了、10/29発送予定)

・125周年記念特集号投稿状況(実際投稿数/予定論文数)

「深海掘削計画(IODP)と深部掘削船「ちきゅう」10年の成果IおよびII」(5/14)

「日本の変成岩研究の進展と展望」(5/12)

「構造地質学の最近25年の成果と今後の展開：第1部」(4/8)

「日本の火成岩研究の進展と展望」(1/7)

・編集投稿出版規則の改正を検討

2) アイランドアーク編集委員会(田村)

(1) 編集状況  
Vol.25 Issue 6(2016年11月)：Article 3編、Pictorial 2編；計5編(11/4発行済み)

Vol.26 Issue 1(2017年1月)：IGCP特集号4編、一般原稿1編；計5編予定

(2) オンライン投稿の状況  
過去半年(2016.5.15~2016.11.15)の投稿数42件。うち新規投稿31件。

(3) その他  
・IAR編集業務について検討中  
・アイランドアークの場合、学会事務局の

仕事としては原稿の管理が主である。原稿の受け渡しと管理、編集長及び委員との間のやり取り、Wileyとの間の取次などである。特に学会としての意見を反映させるような職務の内容でもない。については、学会として人員を補充するか、この業務を他へ委託することの可能性について検討すべき。とりあえずWileyの担当者(荒生氏)にこの業務について、同社で引き受けられるかどうかの可能性について確認したところ、「有」との返事をもたらしている。

・現在Wileyから編集費100万円が学会に手当てされている。

・Wileyから委託費用および業務内容が提案された。

・Wileyの会計は12月締めなので、依頼するならば早いほうがよい。12月執行理事会で検討を依頼し、直後に実施するのがよいであろう

3) 企画出版委員会(小宮)

・子ども向け地質学デジタル教材の制作で子どもゆめ基金に応募を検討→全体報告へ

6. 125周年記念事業実行委員会(緒方、渡部)

・記念ロゴの決定報告：選考過程・結果を確認し、ロゴ最終案の詳細を検討の上承認した。ロゴ関連記念グッズについては次回提案する。

・ジョルジュ特集号について→審議事項へ

・その他

7. 県の石支援委員会(辻森)

・11月活動報告

・県の石出版企画書案(改定版)について→審議事項へ

8. その他(西)

・連合の西田賞(若手)、フェローの推薦について、地質学会から積極的に推薦すべき。特に固体地球、地球生命、個人推薦なので、周知する必要がある。12月下旬締め切り。

・連合の人材育成分科会の地理・地学教科書の用語の統一を図る。本年はリストアップまでの見込み。

以上

2016年12月3日

一般社団法人日本地質学会執行理事会

会長(代表理事) 渡部芳夫

署名人 執行理事 斎藤 真